

空き家活用と国際交流

外国青年が空き家の障子張り



垂水邸で障子貼りに挑戦する留学生

島根大学国際センターと未来こい！ネット（交流部会・多久和秀政部長）の初の協働事業が、十一月七日、垂水邸を舞台に展開された。

島根大学と開星高校に留学している学生十一人、それに市内に在住する外国人青年二人が参加して、竜王山（りんごん山）林道の整備や障子張りを行った。

参加した青年達の国籍はマレーシア、中国、ブラジル、スリランカ、バングラデシュ、インド、アルジェリア。地元からは、未来こい！ネット交流部会に加え、障子張りの講師として、原田英子さんと原田幸子さんが活動支援にあたった。

「これを契機に、島大留学生と伊野地区との交流を発展させたい。今日がスタートだ。」とセンター長の青晴海教授が意気込みを語った。



縁側でランチ

イスラム圏から来た留学生は、豚肉禁止など、食材制限がきびしいので、この日は弁当持ち寄りとなった。小春日和のもと、縁側ランチで団らんのひとつときを楽しんだ。

竹でご飯を炊く

林道の竹を切っていたバングラデシュの女子学生が、これを持って帰っていかと尋ねる。「えっ、何するの？」「これでご飯を炊きます」。すると、そばにいたマレーシア人女子学生が、「そうそう、私たちもやる。ココナッツミルクを入れて炊くの。チキンカレーと一緒に食べるとおいしい！」。

来年は、留学生と子どもたちが竹ご飯に挑戦してはどうか。

（多久和祥司）

言葉は通じなくても

障子張りができる、やったことがあるという人はスタッフの中でも2人しかいなかった。外国人青年がうまくできるだろうか、という不安が大きかったが、講師のお二人のおかげで、驚くほど早く作業が進み、5〜6枚が精いっぱい想定していたが15枚も貼った。

おばあちゃんと孫の協働作業のようで、なごやかに日本の伝統文化体験ができた。